

芸術家の集まる町 高畑から古刹を訪ねる



START!

- ① 破石町バス停
- 5分
- ② たかばたけ茶論
- 1分
- ③ 志賀直哉旧居
- 10分
- ④ 新薬師寺
- 3分
- ⑤ 入江泰吉記念奈良市写真美術館
- 25分
- ⑥ 白毫寺
- 25分
- ⑦ 高畑町バス停

GOAL!

コースガイド

※見学時間は含みません

志賀直哉旧居



▲高畑にある志賀直哉の住居には武者小路実篤や谷崎潤一郎など、多くの文人や芸術家たちが集まり、「高畑サロン」と呼ばれていました。現在は、旧居の隣にあるカフェに「たかばたけ茶論」としてその名を受け継がれています。

コースのポイント

芸術家の集まる町

芸術家の愛した町と古刹を巡るコース。志賀直哉旧居から、新薬師寺を經由、直哉と親交のあったという入江泰吉氏の全作品を所蔵した写真美術館に向かいます。閑静な住宅街を抜け、少し足を延ばして白毫寺まで。春には珍しい椿が咲く境内から市内を一望する眺めは絶景です。

志賀直哉旧居を巡る観光モデルコース②



芸術家の集まる町 高畑から古刹を訪ねる



たかばたけ茶論 MAP②

大正8年、南仏プロバンスの田舎屋を模して、足立源一郎画伯が建てた洋館。その後、隣に志賀直哉が自宅を建てて移り住んだことで、この場所にも直哉はじめ白樺派文人が集っていました。ここを受け継ぎ、高畑サロンの復活を願う中村一雄画伯により、現在はカフェになっています。

- 11時～18時
- 火曜休
- コーヒー 550円 ケーキ 650円
- 0742-22-2922



新薬師寺 MAP④

天平時代、光明皇后が聖武天皇の病氣平癒を願って建てたと伝えられています。本堂には国最古最大の十二神将がご本尊の薬師如来をお守りしています。秋には境内の萩の花が美しく咲きます。

- 9時～17時
- 600円
- 0742-22-3736



志賀直哉旧居 MAP③

白樺派の文豪・志賀直哉が住んだ和洋折衷の住居。この場所で名作『暗夜行路』が書き上げられました。武者小路実篤や谷崎潤一郎など多くの文人画家の集いの場所で「高畑サロン」と呼ばれていました。

- 9時半～17時半 (12月～2月は16時半)
- 一般350円 中学生200円 小学生100円
- 月曜休 (祝日除く)
- 0742-26-6490

CHECK

サンルーム

大きく明るいガラス張りの天窓があり、床は特注の瓦が敷かれています。部屋の隅には実用と装飾を兼ねた手洗い、食堂からサンルームへの出窓とカウンターがモダンです。この部屋に多くの文人画家が集い、芸術を語り人世を論じたり、麻雀、囲碁、トランプ等の娯楽に興じました。そのような集いが人間的な交際の場や文化活動の核となり「高畑サロン」と呼ばれるようになりました。



入江泰吉記念 奈良市写真美術館MAP⑤

奈良を代表する写真家、故入江泰吉氏の全作品を所蔵。西日本初の写真専門の美術館で故黒川紀章氏の設計で建てられました。入江氏の作品展示を中心に、他の写真家の作品も企画展として行われます。

CHECK

陶壁『華精』

地下展示室へ向かう階段の壁に、入江氏の旧友で故杉本健吉画伯が制作した常滑焼の陶版が埋められています。楚々とした野の花が好きだった入江氏のために花をイメージして制作したもので、杉本氏は「花はよくよくみれば花の中にほとけがごじやる」との言葉を添えています。あなたも花の中の小さな仏さまを探してみれば？

- 9時半～17時 受付/16時半
- 大人500円 高校生200円 小中生100円
- ※土曜は小中高生無料
- 月曜休 (祝日の場合は翌平日)、祝日の翌平日、年末年始、展示替え期間
- 0742-22-9811

びやくごうじ 白毫寺 MAP⑥



高円山麓に建つこの寺からは奈良市街が一望でき、すばらしい眺望が楽しめます。境内には、笠金村が志貴皇子を偲んで歌った「高円の野辺の秋萩 いたづらに 咲きか散るらむ 見る人なしに」の万葉歌碑があります。宝蔵に納められている閻魔様やその眷属の司命・司録像ほか、7体の重要文化財の仏像と対面しましょう。

CHECK

五色椿

(3月下旬～4月上旬が見頃)
境内にある樹齢約400年の五色椿は県の天然記念物で、東大寺開山堂の「糊こぼし」、伝香寺の「散り椿」とともに奈良三名椿として有名。

- 9時～17時
- 400円
- 0742-26-3392